



アクトスがアプリ開発

カードタイプの会員証の代わり

健康管理機能に活用も

バローホールディングスの子会社で会員制スポーツクラブを展開するアクトス(本部・可児市、清水俊宏社長)は、カードタイプの会員証の代わりとして使えるアプリを開発、リリースした。会員の利便性向上が主な目的で、会員証発行費用の削減も見込む。健康管理機能やスマートフォンにインストールしたアプリのプッシュ通知機能を活用して来店を促す。約21万人の会員の半数に当たる10万人の利用を目指す。

(山本貴史)

アプリに会員情報を登録すれば、利用者は店舗に会員証を持参しなくても、スマートフォンアプリ画面に表示されたバーコードをかざすだけで受け付けが済む。

体重や体脂肪率、血圧を記録して目標の数値を入力すれば、必要な運動の目安が分かるヘルスケア機能も用意。運動や健康に関する情報を週1、2回程度提供するほか、プッシュ通知機能

能を使ってアプリや店舗の利用を促したり、キャンペーンやサービスの情報をPRしたりする。会員からの要望を踏まえて機能の拡充を進める。清水社長は「アプリと7月から始めたオンラインフィットネスを連携させ、アプリからフィットネスに参加するといったデジタルサービス

の向上につなげたい。バローグループ全体のサービスの中で取り入れられる機能があれば検討していく」と話す。